

# アイデンティティー 明確に

日本郵船株式会社 常勤監査役

杉浦 哲さん

Hiroshi Sugiura



## 経歴

静岡県清水区出身。県立静岡高校卒業。東京大学法学部卒業。1975年、日本郵船株式会社入社。ニューヨーク支店、経営委員・企画グループ長、常務取締役、代表取締役専務などを経て、2008年、代表取締役副社長に就任。その後、新和海運株式会社代表取締役社長、NSユナイテッド海運株式会社代表取締役副社長を歴任。13年6月から日本郵船常勤監査役。65歳。  
<http://www.nyk.com/>

## 総合物流企業Gをけん引

日本の貿易量の99%は船を利用して、日本郵船は創業130年超の日本を代表する世界的な海運会社。時代の変化やニーズに対応し、近年は航空貨物や海外での完成車陸上輸送事業、エネルギー開発関連プロジェクト参入など、従来型の海運業の枠を超えた海、陸、空を網羅する総合物流企業グループをけん引する。「他の人とは違った仕事をしたい」と大

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

## 新タイプのアーバンモデル

学卒業当時、圧倒的人気だった銀行や商社に行かず、日本郵船を選んだ。「貿易港のある清水で育ったことも動機の一つですかね」。有力企業同士の統合・社名変更が珍しくない中、同社は創業以来一度も社名が変わっていない数少ない大手企業だ。「個人的には自由闊達で人材を育成して人間尊重といいますが、そういう伝統、文化を持っている会社だと思っています」。

年に何回か帰省する。「昔と比べ静岡駅周辺は随分綺麗になりましたが、流れている空気といいますが、時間の速さは変わっていないという気がしてほっとしますね」。

静岡市については「今のまま変わってほしくないという気持ちと、魅力的なところをわかってもらえるように変わってほしい」と複雑な心境をのぞかせる。ただ、「人口流出の現状（政令市で最少の人口、2015年国勢調査）などをみると、もっと変わりようがあるのではないかとも思いますね。例えば、市を訪れた人たちが楽しいまちだと魅力を感じ取ってくれるのかですね」。

「JRさんがどう考えているかわかりませんが」と前置きした上で、「リニア新幹線が開通し、リニア時代に入れば、東海道新幹線のひかり停車本数は飛躍的に増えるかもしれません。従来とは違う東京、名古屋の新しい形のベッドタウン、ふるさと機能を併せ持つアーバンモデルができたらいいですね」。

また、県名と市名が同じであることもあり、「市としてのアイデンティティーがぼやけてしまっている気がします」と指摘。「静岡市のよいところ、悪いところを整理すると、これで勝負できるぞ、というものがいろいろ出てくると思いますね」。静岡県とは異なるアイデンティティーの明確化。うなずける提案だ。

（文：長田義明、写真：杉浦さん提供）